

活動の概要

4月に講師として着任した。「場所・感覚・メディア」プロジェクトに参加し、場所と芸術表現をめぐる問題系について新たな研究の展開があった。また、自身の研究課題である都市におけるメディア・イベント研究についても引き続き研究活動をおこなった。

1 「集まり」のメディア研究

都市論とメディア論の接合点として、人びとの「集まり」をめぐるポストモダン・メディア理論について、言説史を整理し、その重要性を確認した。以下の論考が学会誌に掲載された。

- ・立石祥子（単著、査読あり、研究ノート、2025年10月）「エフェメラルな集まりに関するメディア理論に向けて」『情報文化学会誌』、32巻1号、11～18頁。

学内での活動

1 委員会

年間を通じて IAMAS のイベント、および研究委員会、学生委員会、広報委員会、RCIC委員会、図書館運営委員会にかかわった。

2 「場所・感覚・メディア」プロジェクトに分担担当として参加

プロジェクトに参加し、授業運営にかかわった。

オープンハウスでは、プロジェクトによるトークイベント「想起と記憶芸術」を実施し、司会としてイベントの趣旨説明および論点整理をおこなった。

またプロジェクト研究の展開として、以下の成果を学会発表した。

- ・立石祥子、前林明次（共同、2025年11月29日）「〈複合現実記念碑〉試論—ヴァーチャルな記憶芸術の体験をめぐる—」情報文化学会第33回全国大会大会（城西国際大学 東京紀尾井町キャンパス）。

3 IAMAS 紀要の執筆

IAMAS 紀要に「〈リミナル都市〉の芸術論に向けて」という題目で執筆した（2026年3月公開予定）。

学外での社会活動

1 非常勤講師

中部大学人文学部メディア情報社会学科にて「文化情報デザインプロジェクトD」を担当した。

2 「Surfvote」での執筆

幅広い社会的課題について議論するプラットフォーム「Surfvote」にオーサーとして参加し、イシューを執筆した。